

# スポーツにおける医薬品の不適切使用防止に関する取組

## 背景・課題

トップアスリートに対してはアンチ・ドーピングの観点から、競技力向上を目的とした医薬品の乱用防止について厳格に教育・啓発活動が行われているところ、レクリエーションとしてスポーツや運動を行う一般向けには、医薬品の不適切使用がまん延傾向にある中、安全性が確保されていないことや不適切使用のリスク等に関する情報が十分に周知されていない状況にある。

そこで、スポーツ庁で推進するハイパフォーマンスの成果をライフパフォーマンスに還元する取組の一環として、製薬業界やフィットネス業界等とも連携し、アンチ・ドーピングの知見等を活用した一般向けの啓発活動を行う。

## 取組の概要

- ✓ スポーツ庁と日本製薬団体連合会による共同宣言
- ✓ スポーツ界及び製薬・医療業界からの賛同団体の参画
- ✓ スポーツ界及び製薬・医療業界が連携した本取組の推進
- ✓ 共同宣言に基づくテーマ別キャンペーンによる一般に向けた啓発



## 共同宣言の概要

### 1. スポーツにおける医薬品の不適切使用

医薬品の誤用や乱用は、

- 健康被害をもたらす
- 自己を否定する行為
- スポーツの根源的な価値を毀損する

**絶対に許されない！**

### 3. 社会における課題

- スポーツ界では共通理解のアンチ・ドーピングは社会に広く共有されていない
- SNSなどに氾濫する不正確な情報
- 個人輸入等による海外の医薬品成分が混入したサプリメント等の危険性

スポーツにおける医薬品の不適切使用は広く国民の健康に関わる

**公衆衛生上の課題**

### 2. アンチ・ドーピングの発展

1999年の世界ドーピング防止機構設立以降、世界的な枠組みで推進されるアンチ・ドーピング活動

- アンチ・ドーピング教育
- ドーピング検査
- 違反者に対する制裁措置 等

### 4. スポーツ界と製薬業界の連携

公衆衛生上の課題に対する取組としてスポーツ庁と日本製薬団体連合会による共同宣言

“国民のライフパフォーマンスに寄与すべくスポーツにおける医薬品の不適切使用防止について様々な情報発信を行う等、積極的に連携を推進”

# 医薬品のスポーツ転用は、絶対に許されない！

パフォーマンスを上げるための医薬品の誤った使い方は、スポーツの精神に反し、あなたの身体を傷つけます。

近年トップアスリートに限らず、トレーニング愛好家によるアナボリックステロイドや成長ホルモン（IGF-1等）といった筋肉増強剤の乱用が懸念されています。医薬品の不適切な使用は、違法薬物の使用と同様に様々なリスクを負うことになります。

## ✓ 筋肉増強剤のリスクとは？



### 深刻な副作用

筋肉増強剤アナボリックステロイドは、心疾患、肝機能障害、性機能障害、倦怠感、ムーンフェイス、女性化乳房、ニキビ、抜け毛などの副作用が報告されており、やめた後も後遺症による悪影響があります。



### 医薬品の安全性

日本では、**筋肉増強目的で薬事承認されている医薬品はありません**。インターネット等を通じて筋肉増強剤を個人輸入する場合、副作用に加えて、**偽造品・不良品による健康被害のリスク**もあります。



### 情報の信頼性

筋肉増強を目的として薬剤を処方している医療機関もありますが、これらの機関のHP等は、**薬物使用による効果を強調し、副作用に関する説明が不十分**であることも多く、専門家からも危険性が指摘されています。

## ✓ それでも使う？

筋肉増強剤を含めた**安易な医薬品不適切使用は、危険かつ、スポーツの価値及び自身の可能性を根底から否定する行為**です。  
違法薬物（危険ドラッグ等）の使用と同様に絶対にやめましょう。

スポーツ庁と日本製薬団体連合会は、令和6年7月9日に「スポーツにおける医薬品の不適切使用の防止に関する共同宣言」に調印し、スポーツにおける医薬品の不適切使用の防止について、関係機関と連携して様々な情報発信等を行うこととしています。



スポーツ庁  
JAPAN SPORTS AGENCY

▼ 詳しくは特設サイトへ

スポーツの医薬品不適切使用防止

